

1 回生に教科専門の講義を行うことの一考察

技術教育・森慎之助

1. 授業の概観

本授業は，技術教育の免許を取得するために必要な必修教科である。1 回生後学期に開講している。ここでは，木材に関する基礎知識と加工するための種々の方法などの教授を主体とし，その中に実習を含めて講義を行う内容である。教科書に掲載されている材料や工作機械の図を見て，知識に換えるのではなく，できる限り実際の工具，材料，機械に触れさせる体験を取り入れたることで，より深い知識の蓄積できると思われる。

2. 授業評価法

評価はアンケート形式で行った。評価のための項目は授業法，教育媒体，難易度，達成度，満足度，科目独自などからなる 7 項目で構成し，5 段階評価で行った。表 1 にアンケート質問内容を示す。受講生の内訳は技術専修の 6 名である。アンケート調査時は 1 名欠席で 5 名を対象とした。

表 1 アンケート質問項目

設問番号	設問内容
(1)	教官の話し方や説明により，授業内容(概念，理論など)が，わかりやすく講義された。
(2)	授業内容・レベルはあなたにとって適切だった。
(3)	授業を受講した目的が達成できた。
(4)	本授業により新しい知識，概念，技能を身につけることができた。
(5)	木材に対して面白さを感じてきた。
(6)	実際に木材を加工して製品を作製してみたいと思う。
(7)	来年度も技術教育で開講されている授業科目を履修したい。

3. 授業評価結果

木材加工法 I を担当するのは 2 年目である。昨年度の反省を生かし，講義に使用する準備物を早めに用意し，授業の構成を考えておいた。1 回生は後学期に専修振り分けを行い，すぐに教科専門の授業を受講する。このことで学生は，かなり面をくらっているようである。1 回目にシラバスで授業内容を説明し，次回から授業内容を進めていくのであるが慣れるまでに 5，6 回かかると興味が出てくるようである。

回答結果を図 1 に示す。グラフ内の数値は人数を示す。設問(2)の授業レベルは全員が

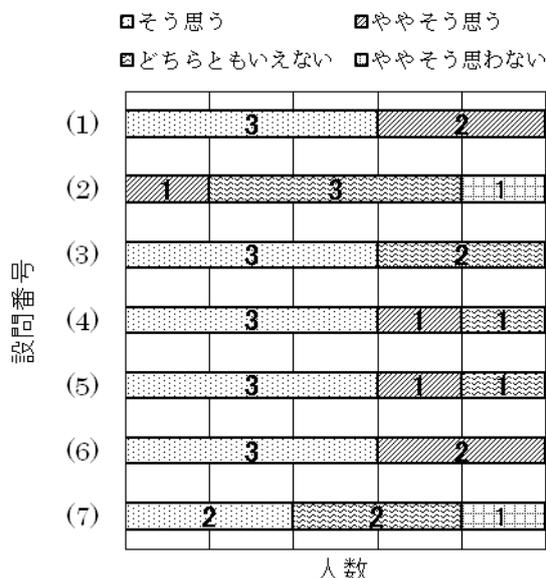


図 1 回答結果

「やややさしい」，「適切」の回答している。その中で，(4)の設問で 4 名の受講生が肯定的に回答しており，木材加工の授業内容の新規性を感じたものと思われる。設問(5)と(6)の回答から，木材と加工に関して興味・関心は高まるようである。自由記述により，身についた知識，技術について回答をさせたところ「道具の使い方」，「ほぞ加工」と記述したものが全員であり，実体験をさせたものについてであった。ただ，試験の結果からは，その知識・理解の度合いは全体的に低いものとなり，評価内容として，優：2 名，良：1，可：3 名であった。興味・関心の高さ知識・理解の低さのずれが，1 回生に対して教科専門を開講することの課題であると思う。時間(学年進行)をかければ，このずれは小さくすると考える。

4. まとめ

実体験をさせることで興味・関心は高まるようであるが，知識・理解を高めるまでには至らなかった。小テストなどを取り入れ，段階的に知識の定着を図りながら授業を進めていくことを来年度から実施したい。